

web版 幼児教育史学会 会報 第34号

目次

第18回大会開催案内	大会実行委員会
『幼児教育史研究の新地平—幼児教育の現代史—』(下巻)目次	
新入会員・会員異動 / 寄贈図書	
事務局からのお知らせ	



第18回大会開催案内

第18回大会は、2022年12月10日(土)に東洋英和女学院大学で開催いたします。

東洋英和女学院は1884年、東京の麻布鳥居坂に「東洋英和女学校」としてカナダ・メソジスト教会派遣の婦人宣教師によって設立されました。1919年に東洋英和女学校附属保姆養成所を開設(現六本木校)しています。戦後1950年、保育専攻部を東洋英和女学院短期大学保育科に改組し、1989年に横浜校地へ大学を開設、その後、保育者養成校としては1997年、短期大学部の募集を停止し四年制大学へと移行しました。

このように幼児教育の歴史に少なからぬかかわりをもってきた東洋英和女学院が、このたび初めて、幼児教育史学会の会場となりました。開催にあたり、キリスト教の信仰を土台にして園児から学生までの保育・教育に実践を重ねてきた女子の一貫私立学校が、日本の公教育においてどのような役割を果たしてきたのか、あらためて考える機会をいただいたように思っております。

第16回および第17回大会は感染症の影響によりオンライン開催となりましたが、今回は、対面での通常開催を予定しています。新型コロナウイルスの感染状況次第ですが、現在のところ、対面開催が可能であれば、横浜校での開催となる見通しです。ただし、感染状況によっては、オンライン開催に切り替えざるを得なくなることもあるかと思われます。プログラムの発行までには開催形態を決定し、学会ホームページにてお知らせします。横浜校は、六本木校に比して都心からのアクセスに少し時間がかかりますが、緑豊かな横浜の地で、できるだけ多くの方々に直接お目にかかれることをたのしみしております。

シンポジウムは、昨年の大会シンポジウムに続き、本学会の創設15周年を記念して刊行した『幼児教育史研究の新地平—近世・近代の子育てと幼児教育—』(下巻)の検討を踏まえて、幼児教育史研究の成果と課題を問うことを企画しています。

プログラムは10月に発送する予定ですが、最新の情報は学会ホームページで適宜お知らせいたします。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

(第18回大会実行委員長 塩崎 美穂)

大会開催要項

1. 期日:2022年12月10日(土)大会

2022年12月10日(日)関連企画

2. 会場:東洋英和女学院大学 横浜校

3. 大会日程(予定)

9:00～ 受付
9:30～13:00 研究発表
14:00～16:30 シンポジウム
16:45～17:30 総会

4. シンポジウム

テーマ : 幼児教育史研究の成果と課題 2
—幼児教育の現代史にむけて—
提案者 : 「戦争と復興の時代の幼児教育」
小玉亮子(お茶の水女子大学)
「科学と交錯する幼児教育」
福元真由美(青山学院大学)
「グローバル化と保育」
村知稔三(青山学院大学)
コメンテーター : 「幼児教育の現代史にむけて」
一見真理子(お茶の水女子大学)
司会者 : 高田文子(白梅学園大学)

〈趣旨説明〉

昨年の大会シンポジウムでは、学会創設15年周年を記念して企画された『幼児教育史研究の新地平—近世・近代の子育てと幼児教育—』(上巻)をめぐる、この編集・執筆を担当した太田素子・勝山吉章・榊瑞希子の3人の会員に、本書の検討を踏まえて幼児教育史研究の成果と課題について提案をいただいた後、オムリ慶子会員、松島のり子会員によるそれぞれの専門の立場からのコメントをもとに討論を行い、研究の成果と課題の共有がはかられた。本年はその第二弾として、下巻についての検討をおこなう。

世界は、15周年記念誌の企画がたちあがったときには思いもよらなかった様相を呈している。2年をこえるコロナ禍の生活、ロシアによるウクライナへの攻撃、そして気候変動はこの夏も猛威をふるっている。あらゆることが瞬く間にグローバルに展開する時代の到来は、幼児教育においても例外ではない。下巻では、グローバル化が一挙にすすむ時代を幼児教育の側からどうとらえることができるのかという視点をもちつつ、幼児教育の現代史に関して編集を試み

た。今回のシンポジウムでは、本書の編集・執筆を担当した小玉亮子(第1部)・福元真由美(第2部)・村知稔三(第3部)の会員から提案をおこない、全体の統括編集を担当した一見真理子会員から総合的なコメントを行う。会員の皆様からの奇譚のないご意見をいただき、幼児教育史の成果と課題についてさらなる討論をおこなっていきたい。

5. 大会参加費

会員・非会員ともに1,000円、大学院生は無料(受付で学生証を提示してください)。なお、今回は懇親会の開催はいたしません。

6. 研究発表の申し込み

① 申し込み方法

第17回大会の申込書は、学会HPからダウンロードしてください。9月12日(月)までに記入済みの「研究発表申込書」を電子メールに添付して学会事務局へお送り下さい。

宛先:admin@youjikyokushu.org

数日以内に到着メールを送信します。

② 発表資格

- ・一般会員:申し込み時に年会費を納入済みのこと
- ・新入会員:申し込み時までに入会手続きを終え、年会費を納入済みのこと

③ 発表時間

1人(1グループ)あたり30分(質疑応答5分を含む)を予定していますが、変更する可能性もあることをご了解ください。

④ 発表受付手順

学会事務局で申し込みを受領した後、理事会にて発表内容を検討します。その結果、発表数調整のため、個別に連絡を差し上げる場合があります。

7. 関連企画(愉フォロ会)のご案内

大会翌日「海外の幼児教育史の研究動向を愉しみながらフォローする会(愉フォロ会)」を開催いたします。

日時: 12月11日(日) 9時半から

(幹事:塩崎美穂)

<大会に関する問い合わせ先>

〒226-0015 神奈川県横浜市緑区三保町 32

人間科学部 塩崎美穂 研究室 気付

幼児教育史学会第18回大会実行委員会

E-mail:shiozaki.miho@toyoeiwa.ac.jp

幼児教育史学会 15 周年を記念して、『幼児教育史研究の新地平（下巻）』を刊行いたします。
昨年度の会費を納入済みの方、今年度新たに入会され会費を納入された方に、お送りいたします。

昨年度分の会費をまだ納入されていない方は、8 月末までに納入して頂ければ、追って送付いたします。
問い合わせは幼児教育史学会事務局までお願いいたします。

『幼児教育史研究の新地平—幼児教育の現代史—』（下巻）目次

第 1 部 戦争と復興の時代の幼児教育

第 1 章 20 世紀初頭のドイツにおける幼児教育の展開

—ペスタロッチ・フレーベルハウスに焦点をあてて—（小玉亮子）

第 2 章 末期「保育問題研究会」による「国民保育施設」構想

—その〈論理〉と〈倫理〉—（浅野俊和）

Column 戦時翼賛体制と保育関係者（太田素子）

Column 植民地朝鮮のオリニ運動と乳幼児愛護運動（田中友佳子）

第 3 章 戦後幼稚園の復興 —幼稚園の基準化—（高田文子）

第 4 章 保育所の対象・目的を規定した「保育に欠ける」をめぐる解釈の変遷（松島のり子）

Column 1940 年代前後のフランスとフレネ教育運動（瓦林亜希子）

Column 1930～40 年代前後のアメリカ合衆国連邦教育局における幼児教育の位置づけ（織田望美）

第 2 部 科学と交錯する子育て・幼児教育

第 5 章 1950 年前後における育児の科学化の諸相（首藤美香子）

第 6 章 「教育の現代化」における「科学遊び」の特徴と意味（福元真由美）

Column 乾孝の「児童心理学」（浅井幸子）

Column 乳児の保育所づくりからケア・教育の向上へ（塩崎美穂）

Column モンテッソーリ・リバイバルと早期知的教育の拡大（阿部真美子）

第 7 章 障害児保育と「保育の科学化」（田中 謙）

第 8 章 ローリス・マラグツィの思想と乳幼児の学びへの挑戦（浜田真一）

Column 幼児期の学びにおける貧困との戦い

—ヘッド・スタート計画の構想と評価—（添田久美子）

Column プラウデン報告のインパクト（梶瑞希子）

第 3 部 グローバル化と保育

第 9 章 子どもの権利条約と幼児教育・保育

—乳幼児の「意見表明権」と「参加する権利」—（小田倉 泉）

Column スウェーデンの保育から学ぶもの（水野恵子）

第 10 章 体制転換後のロシア、ベラルーシ、カザフスタンの社会と保育（村知稔三）

第 11 章 トランスナショナル・ドキュメンテーション（浅井幸子）

Column アメリカの保育の専門職化と質評価（北野幸子）

第 12 章 幼児教育・保育のグローバル化—EFA・ESD から SDGs へ—（一見真理子）

Column 保育所の窓からグローバル化の進展を考える（近藤幹生）

新入会員・会員異動（2022.3.5～2022.7.30）

*入会

石川 素子：帝京大学

山本 房子：中国短期大学

*異動

一見真理子：お茶の水女子大学人間発達科学

研究所

梶瑞希子：東京大学教育学研究科発達保育実践政策学センター

上田 星：関西学院大学大学院研究員

金子 嘉秀：帝京大学

草野 舞：尚絅大学短期大学部
芝田圭一郎：神戸教育短期大学

朴 淳香：文京学院大学

寄贈図書（2021.3～2022.6）

佐々木宏子・佐々木晃『遊誘財・子ども・保育者』郁洋舎、2022年4月。
経済協力開発機構(OECD)編著、一見真理子・星三和子訳『OECDスターティングストロング白書一乳
幼児期の教育とケア(ECEC)政策形成の原点、明石書店、2022年5月。
グニラ・ダールベリ、ピーター・モス、アラン・ベンス著、浅井幸子監訳『「保育の質」を超えて―「評価」の
オルタナティブを探る』ミネルヴァ書房、2022年5月。

事務局からのお知らせ

1) 会費納入のお願い

本学会の会計年度は10月1日から翌年の9月30日までです。振込用紙は、第17回大会年度(2021年10月1日～2022年9月30日)とそれ以前の年度の会費が未納の方にお送りしております(2022年7月初旬確認)。宛名シール上に記載された未納分年度をご確認のうえご納入ください(シールの記載と振り込み用紙のない会員は完納状態にあります)。本状と行き違いでご納入の場合には、何卒ご容赦ください。

年会費：一般会員 7,000 円、特例会員(学生・退職者等) 4,000 円

送金先：郵便口座番号 00190-9-73668

加入者名：幼児教育史学会

2) 「会報」への原稿募集

会報を通じた情報提供と交流を随時はかっています。会員からの研究情報、自己紹介文、幼児教育史研究への提言、関連エッセイなどを事務局までぜひお寄せください。年2回の会報発行時までには届いた分を調整の上、掲載いたします。次回会報は2023年2～3月頃を予定しています。

3) 所属・住所などの変更届けに関するお願い

変更が生じた場合は、もれなくメールにて学会事務局までお知らせください。



幼児教育史学会会報 第34号
2022年7月30日
発行者 幼児教育史学会
113-0033 東京都文京区本郷7-3-1
東京大学大学院教育学研究科 浅井幸子研究室気付
幼児教育史学会事務局
E-mail: admin@youjikyokushi.org
郵便振替 00190-9-73668
編集 塩崎美穂 印刷 木元省美堂